

社会科学習指導案

広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時・場所 令和元年12月〇日(〇)
- 2 学年・学級 第2学年〇組
- 3 単元名 第3章 日本の諸地域 7節 北海道地方
- 4 単元について

本単元は中学校学習指導要領第2章第2節社会(平成20年版)の以下の内容を基に設定した。

【中学校学習指導要領 第2章 第2節 社会】

(地理的分野) 2内容 (2) 日本の様々な地域 ウ日本の諸地域

(ア) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。

※参考 平成29年告示 中学校学習指導要領 第2章 第2節 社会

(地理的分野) 2内容 C日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域

① 自然環境を中核とした考察の仕方

①の考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。

(イ) ①の考察の仕方で行き上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日本の諸地域において、①で扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

○ 教材観

本単元では、日本の諸地域の学習の最後に位置付けられる「北海道地方」を、主に雄大な自然と共生する人々の暮らしという視点で捉えていく。北海道地方で学ぶ内容としては、以下の3点が主に挙げられる。

第一に、北海道地方の自然環境とそこでの生活の工夫である。北海道地方は、日本で最大面積をほこるとともに、日本の最北端に位置づく地域である。そこでは多様な自然環境とともに、それを活用した生活(自然環境を踏まえた暮らし・自然環境を克服した暮らし)が営まれていることを捉える。

第二に、北海道地方の歴史と人口についてである。北海道地方の学習は歴史的分野との関連も深く、特に明治時代以降の開拓の歴史から、現在の北海道地方に至る開発の経緯や人口分布の変化などを捉えることが、北海道地方の産業を捉える学習にも必要な内容となってくる。例えば、北海道地方における水産業の学習の際も、その歴史(変遷)を扱うことで、自然環境を生かしつつ、また、当時の国際情勢に対応してきた北海道地方の水産業の特色が捉えられる。

第三に、農業を中心とした北海道地方の産業の特色と課題についてである。北海道地方の

農業は、日本で最大の耕地面積をもつとともに、自然環境を生かし、小麦やじゃがいもなど多くの農産物の農業出荷額は他の都府県を圧倒している。これらの特色をもつ北海道地方の農業であるが、農業の規模の拡大に伴う大型機械や巨大な貯蔵設備などの経済的な負担に悩まされるだけでなく、近年、TPPやEUとのEPA妥結による関税の低下（及び将来的な撤廃）にともなう安価な輸入農産物による影響も深刻化が予想されているという課題もある。そこで、この内容を取り扱うことは、これからの北海道地方を考えていくことにつながり、例えば、北海道地方の農業の課題解決として、食料加工品を中心とした生産から加工・販売までの一元化による新たな第6次産業の創出や、地域の観光資源を発掘し、それらと連携した新たな産業の開拓など、世界を視野に入れた北海道地方の成長戦略を考えることができる内容である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、授業中、課題に前向きに取り組むことができる生徒が多い。また、全ての教科でペア・グループ活動を取り入れているため、授業中に生徒同士で話し合うことは日常化している。理解力が高い生徒も多く、中四国地方の学習で過疎・過密の現象を捉える際、人口分布図と交通網マップの資料を自らクロスさせて考えるなど、資料と資料を関連させて理解することや他の生徒の考えと関連させて考えることもできる。

しかし一方で、学級全体での指示では、なかなか理解できず、個別に支援が必要な生徒も複数名いる。また、学習における不安や苦手意識をもつ生徒もおり、他の人の前で間違えることを極度に恐れ、自分の意見を言えない生徒もいる。

○ 指導観

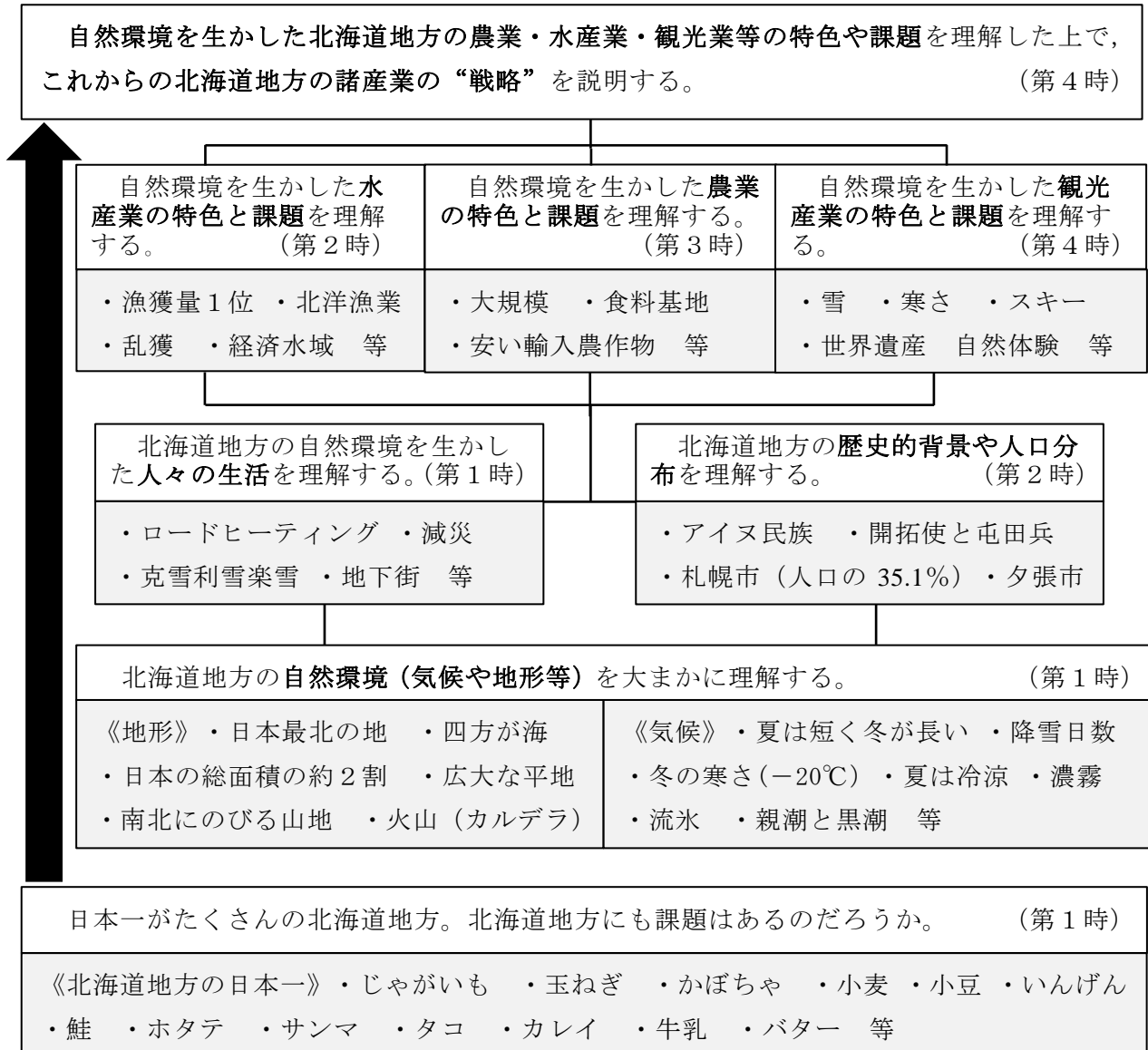
そこで本単元では、北海道地方が日本の諸地域の最後に位置づくことを生かし、1学年から地理的分野で学んできた既習内容を活用して学習していきたい。具体的には、北海道地方の特色を捉える際、今までの地域と比較したり、振り返ったりしながら学習を進めることで北海道地方の特色を理解させたい。また、理解を深めたり、自分の意見に自信を持たせたりする場として、本校で取り組んでいるペア・グループ学習を活用し、生徒同士の学びをもとに授業を展開し、生徒の発言を聴き、つないでいくことで、学級全体の理解を、個々の生徒の理解につなげていきたい。

さらに、主体的に自分の意見をもたせる場として、単元の最後に北海道地方の課題の克服のための北海道地方の成長戦略を考える学習を位置付ける。そして、生徒がもつ北海道地方の良いイメージを揺さぶることから学習問題を提示し、主体的に自分の考えをもたせていきたい。

5 単元目標

北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに、多面的・多角的に考察し、北海道地方の自然環境・諸産業の特色及び課題を理解する。

6 単元の構造図



7 単元計画

	めあて	内容	振り返り
1	北海道地方における自然と人々の生活の関係性を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方が日本一のものを知り、北海道地方の良さをイメージする。 北海道地方における各都市の雨温図や地形を分析することで、各地域の気候及び地形の特色(らしさ)を認識する。 北海道地方の自然と人々の生活の関係性について複数の資料を読み取りつつ、説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の総面積の2割を占め、各地域に山脈や広大な平野がある。 厳しい環境でも生活できるように、様々な工夫がなされている。
		北海道地方には、どんな課題があるのだろうか。	

	めあて	内容	振り返り
2	北海道地方の水産業の特色を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の歴史を通して、北海道地方の人口分布の特色を説明する。 北海道地方の水産業の歴史と変遷グラフを踏まえて、近年の北海道地方の水産業の特色を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 先住民族のアイヌ民族の土地を開拓していくことで耕作地を拡大させ、札幌を中心に都市化した。 乱獲や経済水域の設定により漁獲量は減少したが、近年は養殖などの育てる漁業が発達している。
3 本時	北海道地方の農業の特色を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 統計表を用いて、他の都府県と比べた北海道地方の農業の特色を説明する。 近年の TPP 及び EU との EPA の発行による影響を、資料を読み取りつつ分析し、農業の課題について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方は大規模で専門化・機械化し、多額の農業生産額を誇る 関税の低下（撤廃）によって、安価な輸入農産物がもたらされ、北海道地方の農業でも圧迫されている。
4	北海道地方の農業及び諸産業の今後の“戦略”について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料の分析を通して、価格以外の付加価値化や、生産から販売までの一元化などの取り組みを認識する。 北海道地方における諸産業（農林水産業・食料品産業・観光産業等）の今後の戦略について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 品種改良によるブランド化や安全性によって付加価値を高め、生産から販売まで一元化することで効率的な生産と販売を目指している。 北海道地方は多くの観光資源を持ち、観光産業の発展によって地域の活性化も同時に目指している。

8 本時の目標

統計表を含む、複数の資料の比較を通して、北海道地方の農業の特色を認識するとともに、近年の輸入農産物による影響について説明できる。

9 本時の評価基準

評価規準	「十分満足できる」(A)	「おおむね満足できる」(B)
北海道地方の農業の特色と近年の課題について説明することができる。	他の都府県と比べた北海道地方の農業の特色（大規模な耕地・多額の農業生産額・主業農家中心等）と、近年のTPP及びEUとのEPAの発効による輸入農産物の影響について説明することができる。	他の都府県と比べた北海道地方の農業の特色（大規模な耕地・多額の農業生産額・専業農家中心等）を説明できる。

10 本時の指導過程と評価

	学 習 活 動	教師の指導・支援	評価規準・評価方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・クリームシチューに使われている食材から、北海道地方が多くの農産物の生産第1位であることを確認する。 ・本時の課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方の農業を身近に感じさせるため、及び日本におけるシェアの大きさを確認するため、クリームシチューを導入する。 ・主体的に学ぶ雰囲気づくりのためペアで考えさせる。 	
<p>北海道地方の農業の特色と課題を説明できる。</p>			
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料を使って、北海道地方の農業の特色を説明する。 Q1.北海道の農業には、どのような特色があるか？ ・北海道地方の農業経営が厳しくなっていることを捉える。 ・複数の資料から、北海道地方の課題を説明する。 Q2.なぜ日本で最大の農業生産を誇る北海道でも、近年、農業での経営が難しくなっているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計表の読み取りの支援として、ワークシートの整理表を用いてまとめさせる。 ・理解を深めるため、及び理解の難しい生徒への支援のため、グループで統計資料を読み取り、北海道の農業の特色を捉えさせる。 ・北海道地方の農業の課題に気付かせるため、「栗山町の農家戸数の変化」の資料を準備する。 ・理解を深めたり、及び説明する力をつけたりするため、グループで資料を読み取り、TPP及びEUとのEPAの発効による、北海道地方の農業への影響を考えさせる。 ・深く考えさせるため、既習事項（諸外国の大規模な農業生産や、関税による輸入製品の価格低下）を踏まえるよう伝える。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。 ＊（時間があれば）何名かの生徒を指名し、全体で共有する。 ・次時への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地方の農業の特色と課題について整理するため、振り返りの時間を確保する。 ・北海道地方の課題から日本の農業の課題へ視点を広げる声かけで、次時の学習への見通しをもたせる。 	<p>北海道の農業の特色と課題について説明することができる。【思考力・判断力・表現力等】</p> <p><ワークシートでの記述></p>